

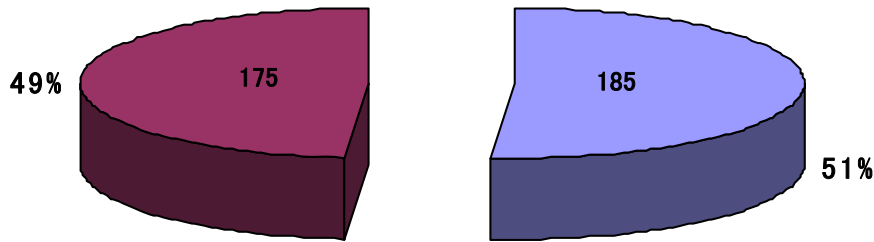
# 和仁会病院 回復期リハビリテーション病棟実績報告

平成24年4月1日から平成25年3月31日までの1年間に当院回復期リハビリテーション病棟に入院された患者(360例)について内容を分析したので、ここに報告する。

## 1. 対象者内訳 (n=360)

### ①疾患割合

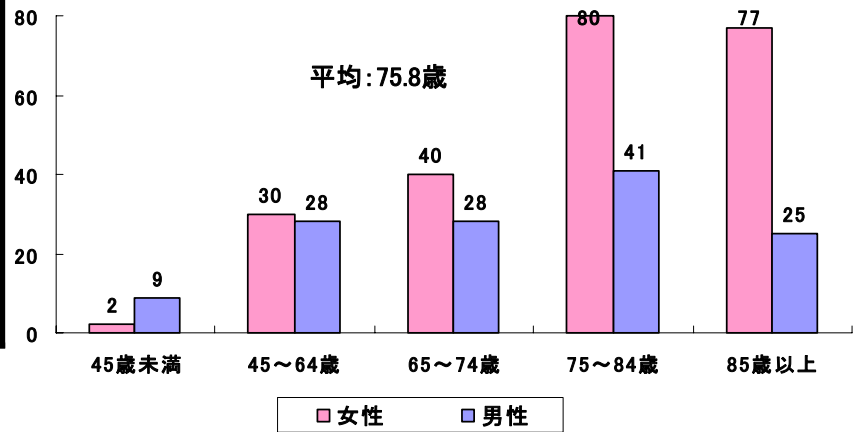
※グラフ内数字は実数を示す



■ 脳血管疾患 ■ 運動器疾患

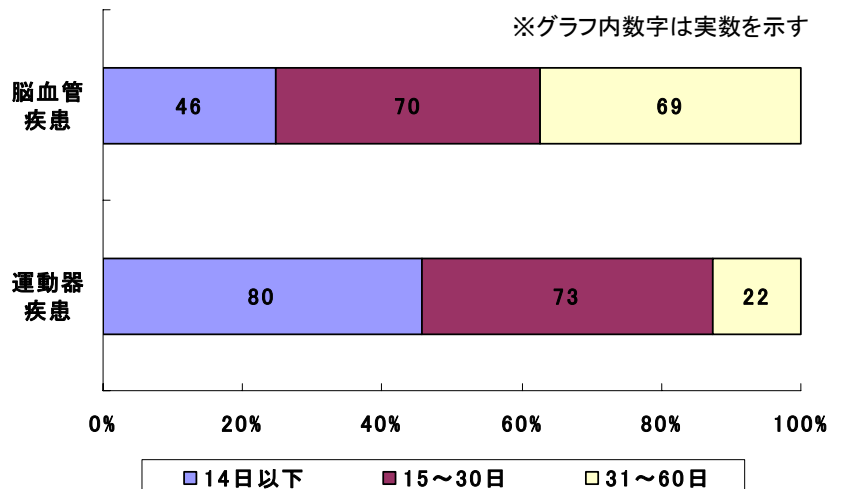
### ②年齢割合

年齢割合	女性	男性
45歳未満	2	9
45～64歳	30	28
65～74歳	40	28
75～84歳	80	41
85歳以上	77	25
合計	229	131

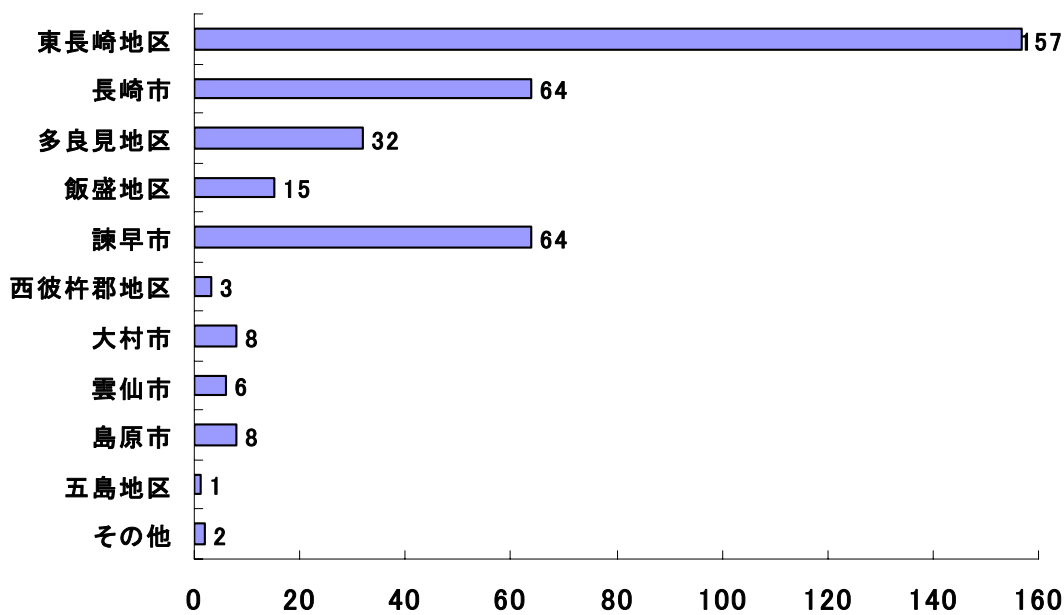


### ③入院までの期間

	脳血管疾患	運動器疾患
14日以下	46	80
15～30日	70	73
31～60日	69	22
合計	185	175



#### ④ご自宅の地域

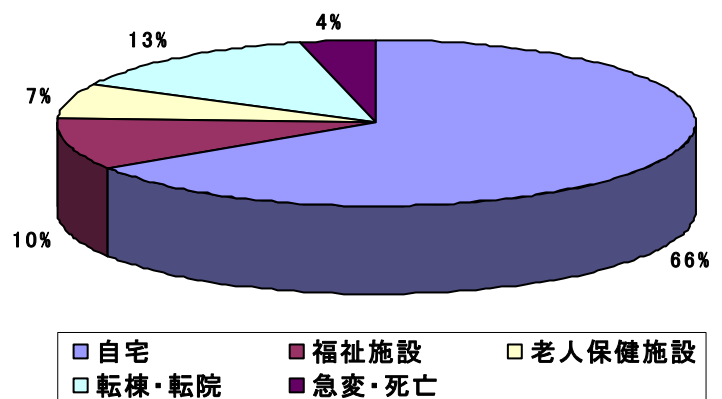


退院先	人数
東長崎地区	157
長崎市	64
多良見地区	32
飯盛地区	15
諫早市	64
西彼杵郡地区	3
大村市	8
雲仙市	6
島原市	8
五島地区	1
その他	2
合計	360

## 2. 実績報告 (実績報告は入院中の患者を除く n=277)

### ①退院先

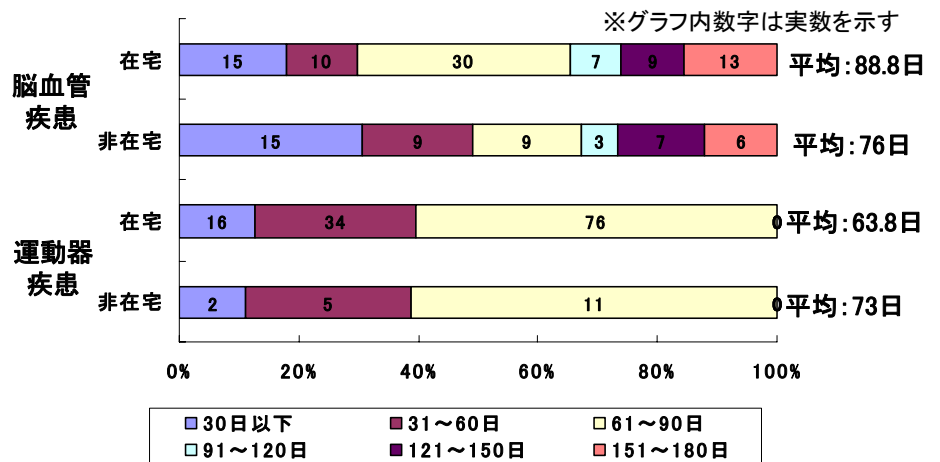
退院先	人数	割合
自宅	182	66%
福祉施設	28	10%
老人保健施設	19	7%
転棟・転院	37	13%
急変・死亡	11	4%
合計	277	100%



退院先は、自宅への退院が66%、『在宅』扱いとなる福祉施設への退院が10%であった。これら2つを合わせると在宅復帰率が76%という結果であった。

## ② 在院日数

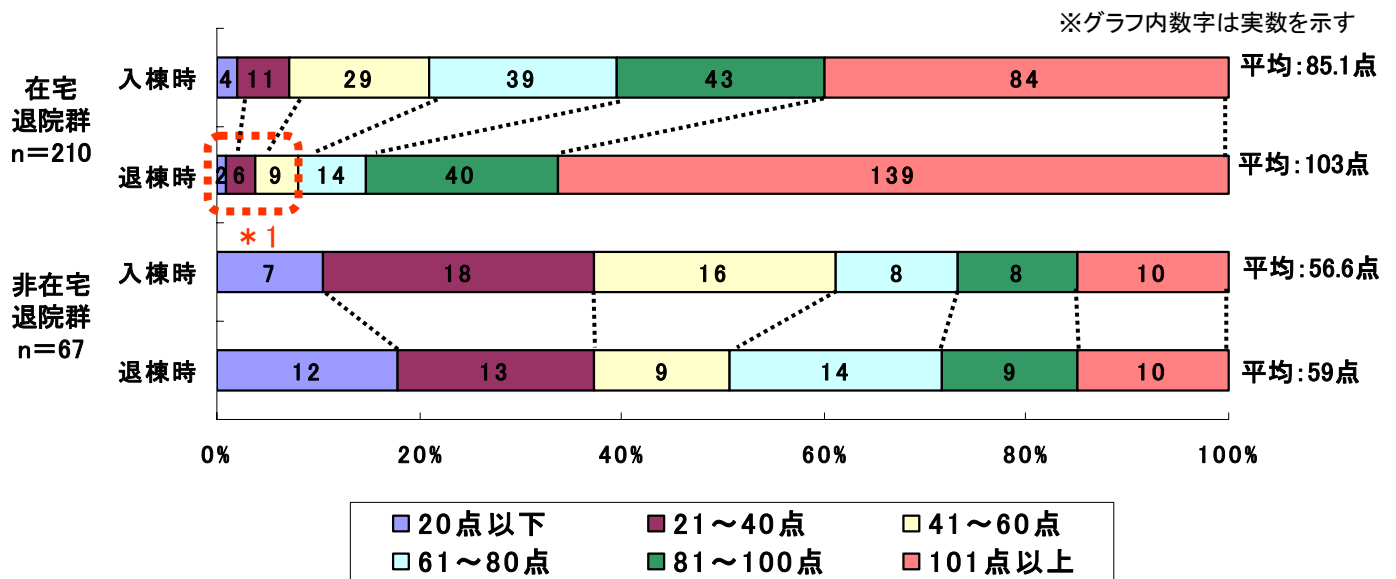
	脳血管疾患	運動器疾患
30日以下	30	18
31～60日	19	39
61～90日	39	87
91～120日	10	0
121～150日	16	0
151～180日	19	0
合計	133	144



回復期リハビリテーション病棟の入院日数は、脳血管疾患で、高次脳機能障害がある場合は180日、高次脳機能障害がない場合は150日となっており、運動器疾患は90日となっている。

当院では、脳血管疾患患者は90日以内の退院者が約66%で、運動器疾患は60日以内の退院者が約40%という結果であった。

## ③ FIM指数の変化



FIMとは、機能的自立度評価表 (Functional Independence Measure) の略であり、日常生活活動を7点満点の18項目 (食事・更衣・移動・排泄・理解・記憶など) で評価したもので、全項目完全自立の場合126点となる。

一般的に器具などを使用しての修正自立の場合6点と評価し、合計100点付近が在宅復帰の目安とされている。

退院先別のスコアでは在宅退院群が平均103点で非在宅退院群が59点と大きな差が見られた。

しかしながら、在宅退院群の中には60点以下の重度障害者 (介助必要者) 17例が含まれており、これらを在宅へ結びつけることができた。[\*1]

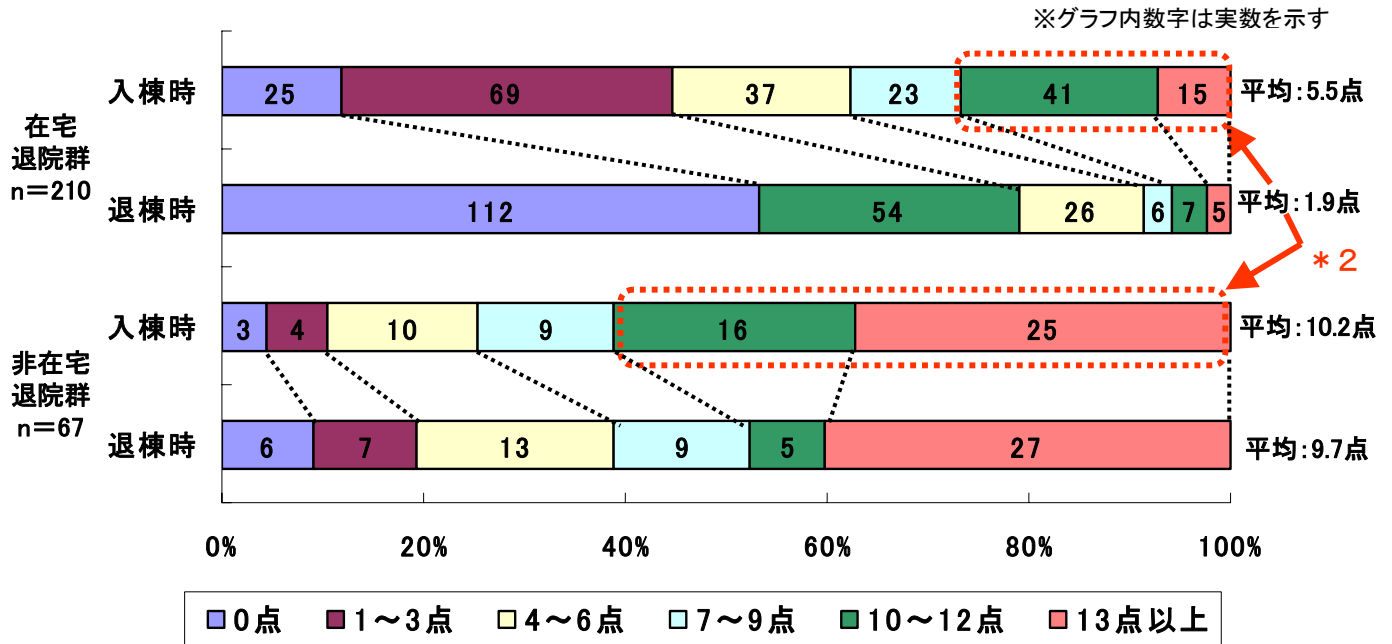
#### ④ 日常生活機能指標の変化

日常生活機能指標は看護師が行う評価であり、点数が低いほど介助量が少なく、自立度が高いという評価である。

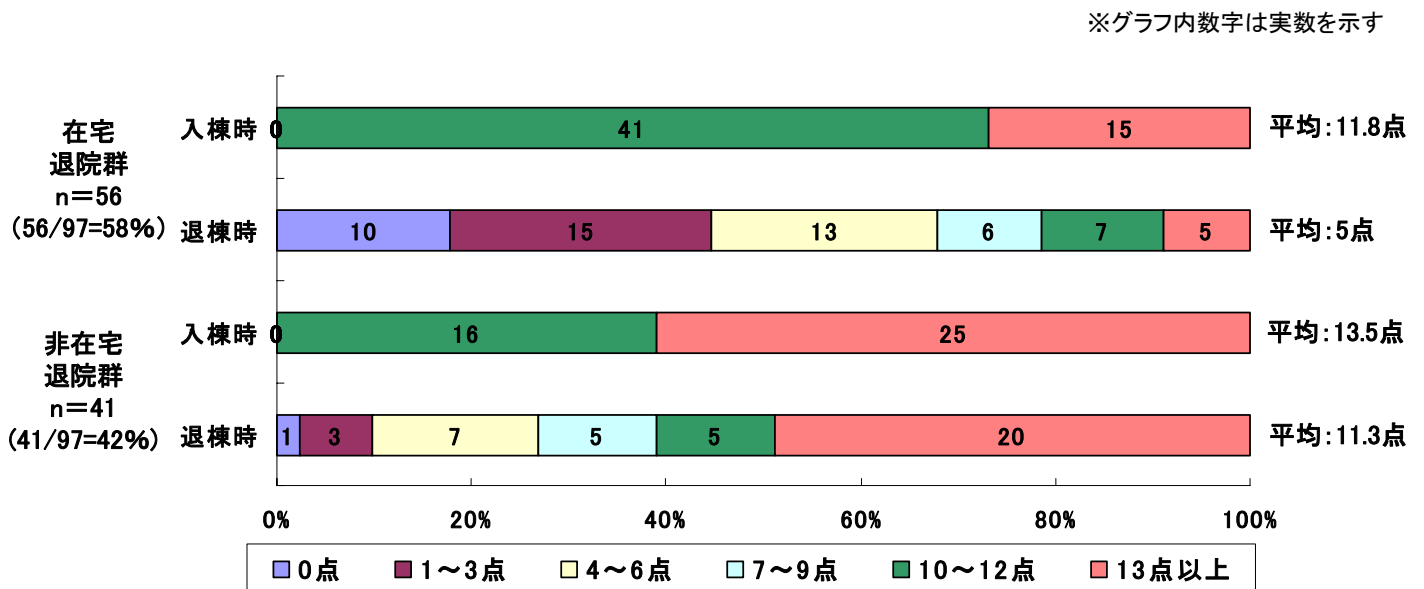
入院時の平均点は7.9点であり、重症者と言われる10点以上の割合が、35%であった。

退院時の平均点は5.8点であり、重症者の割合は16%に減少していた。

以下に退院先別に見た日常生活機能指標の変化を示す。



\* 入棟時、重症者だった97例[\*2]を退院先別にスコアの変化を示す。



入院時10点以上の重症者は97例であった。そのうち56例の方が在宅へ退院され、なかでも25例の方は3点以下と、ほとんど介助を要しない状態で退院された。また10点以上の方も家族の協力や社会資源の利用により12例在宅に戻られた。